

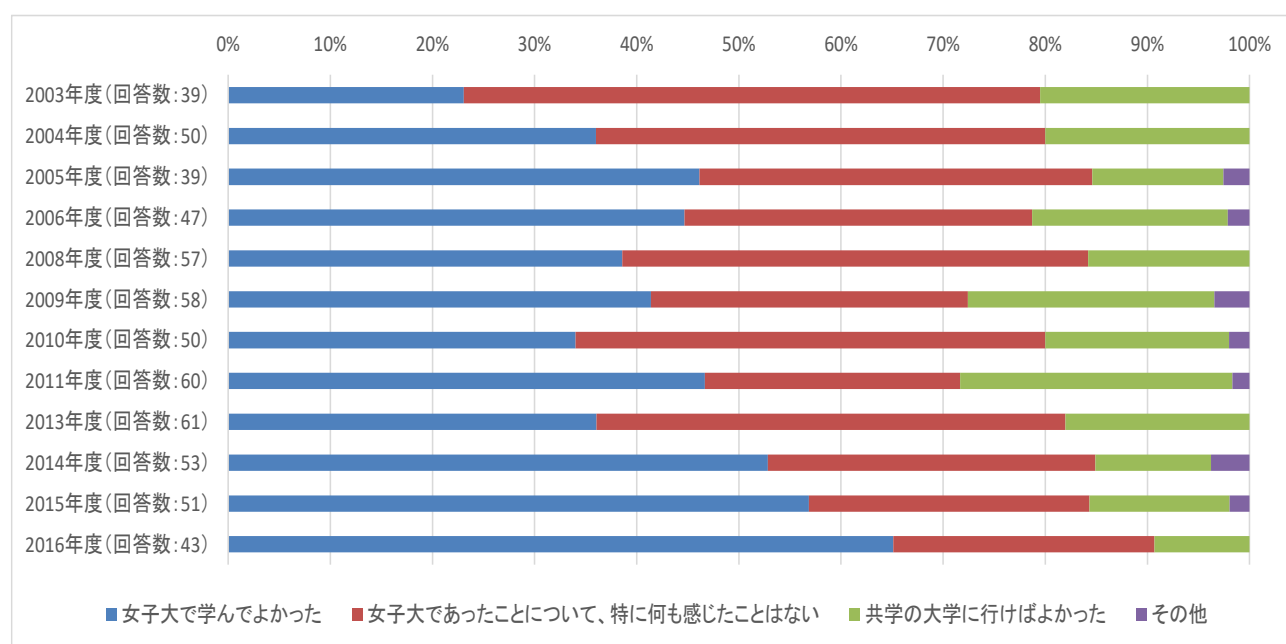
京都ノートルダム女子大学 卒業生アンケート結果

「共学ではなく女子大を卒業したことについて、卒業後どんな風を感じていますか。」

1. 女子大で学んでよかった
2. 女子大であったことについて、特に何も感じたことはない
3. 共学の大学に行けばよかった
4. その他

○上記の設問の回答結果を、卒業年度ごとに分類して集計した結果

卒業年度	女子大で学んでよかった	女子大であったことについて、特に何も感じたことはない	共学の大学に行けばよかった	その他
2003年度（回答数：39）	23.08%	56.41%	20.51%	0.00%
2004年度（回答数：50）	36.00%	44.00%	20.00%	0.00%
2005年度（回答数：39）	46.15%	38.46%	12.82%	2.56%
2006年度（回答数：47）	44.68%	34.04%	19.15%	2.13%
2008年度（回答数：57）	38.60%	45.61%	15.79%	0.00%
2009年度（回答数：58）	41.38%	31.03%	24.14%	3.45%
2010年度（回答数：50）	34.00%	46.00%	18.00%	2.00%
2011年度（回答数：60）	46.67%	25.00%	26.67%	1.67%
2013年度（回答数：61）	36.07%	45.90%	18.03%	0.00%
2014年度（回答数：53）	52.83%	32.08%	11.32%	3.77%
2015年度（回答数：51）	56.86%	27.45%	13.73%	1.96%
2016年度（回答数：43）	65.12%	25.58%	9.30%	0.00%



京都ノートルダム女子大学 卒業生アンケート結果

「女子大で学んでよかった」と回答した場合、どのような点でそう思うか。

自由記述 回答

○2003～2016 年度卒業生の自由記述意見を集約

- ・男性の目を気にせずのびのび学べて学業に集中できた
- ・清潔で美しく、守られた安心できる環境
- ・男性に頼ったり遠慮したりすることなく、自分たちでいろいろなことに取り組むことができたリーダーシップが養えた
- ・女性の生き方や社会における男女格差などについてじっくり考えることができた
- ・多くの友人ができ、社会に出てからも互いにつながっている。

○自由記述回答例（2016 年度卒業生）

思いっきり自分を出せたのは女子大だったから。大学生に戻りたい気分になるくらい楽しかった。友達が出来て、今でも繋がっているから。
男女問題で悩むことが少なくていい。
非常に守られた空間であったため、勉学に集中できたことと校内が清潔であったこと
男女共学の大学生活を経験したことがない為、明確ではありませんが、女性ばかりの環境で、男女間の面倒な事がなく、勉学に励む事ができた点は良かったと思います。また、女性として、どういう風に生きたいか考える機会が多々あったのも良かったと思います。
周りの友達の育ちが良くて、気が合うから
男性が苦手なので、周りの目を気にせず素で過ごすことができた。おしゃれを楽しめた。
女子しかいないので、控えめにしたり、遠慮して過ごす必要がなかったから。
他愛もなく話せる感じが良かった
女子どうしならではの付き合いの難しさを感じ学ぶことができたから。
女子だけの空間でリーダーシップを持って授業や部活に取り組むことができた。
先生と生徒との距離が近く、手厚いサポートや女性としての教育など学ぶことができ成長できたと思います。
仲の良い友人が出来たこと。
さっぱりしていてとても楽だった。ほどよい協力関係にありみんなで卒業しようという雰囲気があった。
女性が多い職場なので、女性同士でのコミュニケーションを大学時代から学ぶことができた。
女子だけでの環境がとにかく楽しかったため。
中高大と女子校だったので、環境も変わらなかったのが楽しく学べました。
勉強に集中できた。同性しかいないので、いい意味でライバル意識が生まれて、高めあえたと感じる。
女性だからと甘えることなく、強さを身につけることができたと思う
「女子大」であるというより、人数的なところで、手厚く見てもらえたと思っています。
お友達が増やしやすかった。
女子中高だったので馴染みがあった
異性の目を気にせずのびのびできたから。
高校も女子校だったので、雰囲気も似ており安心して通えた
高校まで女友達が少なかったのが、女友達が増えた。 男友達より女友達の方が繋がりの強さは安定感があり、生涯の友を得ることが出来た

※本学では 2018 年度より「大学 I R コンソーシアム卒業生調査」を実施。2019 年度からは「女子大を卒業したことについて」の回答調査を本学の独自設問として実施している。この報告では、以下の調査期間の結果をまとめています。

【調査実施期間】2019 年度～2022 年度

【調査対象】調査実施時点において卒業後 5, 10, 15 年が経過した学部卒業生

(例：2022 年度の調査対象者／2006 年度・2011 年度・2016 年度卒業生)